

いきいき
まえばし人陸上女子ハードルで全国2冠
横山 涼葉さん・18歳
共愛学園高3年

新たなステージで次の目標へ



昨年8月に開催された全国高校総体（インターハイ）の1000メートルハードルで優勝。10月の国民スポーツ大会では、少年A3000メートルハードルに出場し、U20日本新記録で頂点に立った横山さん。インターハイ優勝は、高校入学時からの目標だったという。

「優勝は自分にとって高い目標でした。徐々に記録が縮み、自信を持ってインターハイに臨め、結果を残せてとてもうれしかったです」

元々走ることが好きだった横山さんは、小学生の時に入った地域の陸上クラブでハードルの指導を受け、小6から競技を開始。初めは怖さもあったが、技術で記録が縮まりやすい点がハードルの楽しさだという。

「顧問の田中先生がメニューごとに練習の目的を伝えてくれるため、それに沿った動きを意識しています」と高校の陸上部でトレーニングに励んでいる。

「漫画を読むことが好きで、母と買い物に行くこともリフレッシュになります」と横山さん。休日は体を休めることを意識して過ごしているという。

4月からは青山学院大に進学予定。3月中旬には大学の合宿に参加する。

「来年度の目標は日本インカレでの入賞。大学4年間の目標は日本インカレで優勝することです。将来的には世界の舞台で戦える選手になりたいです」

さらなる高みを目指し、横山さんは夢に向かって走り出している。

クローズアップ
CLOSE UP

優勝を約3万人が祝福

2月11日、第103回全国高等学校サッカー選手権大会で優勝を果たした前橋育英高男子サッカー部の功績をたたえ、県民栄誉賞特別賞・市民栄誉賞合同顕彰式を実施。その後実施した優勝パレードなどには約3万人が詰めかけ、監督や選手たちに拍手と歓声を送りました。



[Vol.10] 復元力（レジリエンス）

固 観光政策課
☎ 027-257-0675スローシティ認知度
アンケート
ご協力をお願い

回答期間：3月21日（金）まで

スローシティの取り組みなどを紹介するコーナー。今回は「復元力（レジリエンス）」について紹介します。

スローシティには、スローシティ国際連盟が定める5つの柱があります。そのうちのひとつが復元力。復元力とは、今あるものに価値を見いだすこと。スローシティの根幹にあるこの原則は、大切なメッセージの一つであると同時に、今日明日にも実行可能なことです。3月1日現在、世界33カ国303都市のスローシティが存在し、各地域はそれぞれ異なりますが、この原則はすべての人に当てはまります。

スローシティは何か新しいことをする訳ではありません。私たちが当たり前に食べているおいしい野菜や果物、受け継がれてきた地域行事などを改めて大

切に感じ、地域のみんなで話し合うことが重要です。今ある価値に気付く、より良い形に変え、次世代に継承できるはずなんです。

2月には、スローシティを学ぶ東洋大の学生たちが、復元力をテーマに宮城県気仙沼市を視察。よそ者・若者の視点から見た地域の「あるもの探し」は、地域住民の当たり前の概念を壊し、気仙沼市にとっても大きな気付きとなったことでしょう。学生たちからの本市と比較した報告を楽しみにしています。

最後に市民の皆さんへスローシティ認知度アンケートのお願いです。本市では、スローシティがどのくらい認知されているか調査しています。二次元コードのアンケートフォームから回答をお願いします。

